

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870102548		
法人名	有限会社 サンパル		
事業所名	グループホーム 小吹ケアセンター		
所在地	茨城県水戸市小吹町705-8 (電話) 029-305-6800		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年7月29日

【情報提供票より】(平成21年2月2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人、 非常勤 2人、 常勤換算	11.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 700 円
	夕食	600 円	おやつ (昼食に含む) 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年2月2日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	5	要介護 2	4
要介護 3	5	要介護 4	2
要介護 5	2	要支援 2	
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくもと内科クリニック、 米川歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は「住み慣れた地域の中で残された力を活かし、暮らしの喜びと自信を持って安心した生活を送る」との理念を掲げ実践するとともに職員教育を重視し、外部研修や内部研修の機会をつくりサービスの質の向上に取り組んでいる。  
利用者が安心して暮らせるよう月2回の往診や緊急時に対応できる医療機関を確保している。  
利用者は地域の人々と共に楽しんだり、ホームでの役割りを担ったり、複数の楽しみごとを共有し職員と共に生活感を持ちながら暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域とのつきあいや自己評価を全職員で取り組む体制づくり、食事を楽しむことへの支援、市担当者と事業所との連携についての課題は改善しているが、災害対策及び鍵をかけないケアへの課題については、再検討することが望まれる。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員は自己評価の意義や目的を理解するとともに各ユニットで話し合い、全体会議で自己評価をまとめている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回市職員や利用者、事業所関係者等で開催している。会議では事業所からの状況報告のみで、委員と積極的な話し合いをするまでには至っていないので、今後地域との関係を密にするためにも地域の代表や利用者の家族等を委員に加えるとともに会議においては課題を設け、改善に向けた意見交換になることを期待する。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用契約時に苦情相談等受付窓口を家族等に説明するとともに、各ユニットごとに窓口担当者を決めている。 意見や要望が出た場合は管理者やユニットリーダーで協議し運営に活かしている。 毎月の利用料は現金払いになっており、家族等が支払いに訪ずれた時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 老人会の催し物を集落センターに観に行ったり、中学生の体験学習の受け入れや自治会の清掃活動に参加したり、散歩中に近所の人々とコミュニケーションを図るなどで地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はホームが地域の力になりたいとの思いから「住み慣れた地域の中で残された力を活かし、暮らしの喜びと自信を持って安心した生活を送る」との理念を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットや事務所、休憩室に掲示し全職員で共有するとともにミーティングでも話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会の催し物を集落センターに観に行ったり、中学生の体験学習の受け入れや自治会の清掃活動に参加したり、散歩中に近所の人々とコミュニケーションを図るなどで地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は自己評価の意義や目的を理解するとともに各ユニットで話し合い、全体会議で自己評価をまとめている。 外部評価の結果を踏まえ、具体的な改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回市職員や利用者、事業所関係者等で開催している。 会議では事業所からの状況報告のみで、委員と積極的な話し合いをするまでには至っていない。	○	地域の代表や利用者の家族等に運営推進会議の重要性を理解してもらい、協力が得られるよう働きかけるとともに委員の固定化を期待する。 また、会議においては課題を設け、改善に向けた意見交換になることも期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市担当者に事業所の取り組みなどを電話や月1回訪問するなどで相談し、積極的に連携を図るよう努めている。 介護相談員を受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求時に近況報告書を送付している。 毎月の利用料は現金払いになっており、家族等が支払いに訪ずれた時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。 また、金銭管理は出納帳を作成し領収書等を家族等に渡し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に苦情相談等受付窓口を家族等に説明するとともに、各ユニットごとに窓口担当者を決めている。 意見や要望が出た場合は管理者やユニットリーダーで協議し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1名か2名の職員異動をユニット間で年1回実施している。 職員間で意見の相違があった場合は管理者が相談にのるほか、職員の勤務表の変更や併設している他の事業所への異動などで離職が少なくなるよう工夫し、利用者が馴染みの職員によるケアを継続して受けられるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は1対1の新人研修や段階に応じて外部研修が受講できるような体制を整えるとともに、会議で研修報告を行い全職員が共有している。 内部研修は各ユニットでテーマを決め介護支援専門員を中心に全員出席で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水戸グループホーム協会に加入し研修会を通してサービスの質の向上に取り組むとともに、他事業所を見学したり職員と交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族等に見学してもらったり、介護支援専門員が自宅を訪問し実態調査や生活歴を把握して、利用者と十分にコミュニケーションを図りながら利用が開始できるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に自家菜園や行事を行う中で、頑張る姿や物を大切にすることなどを気づかせてもらっている。 また、利用者一人ひとりに担当職員を決めており、馴染みの関係をより強く築き利用者から学んだり支えあう関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴を把握するとともに表情の変化を見逃さないよう観察し、利用者がどのように暮らしたいか意向の把握に努めている。 また、意志疎通が困難な利用者は家族等から話を聞き、利用者のパターンに合わせて支援をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見を聞き、全職員で検討し利用者の状態に即して作成しているが、家族等に説明したり確認印をもらうまでには至っていない。	○	介護計画は家族等に説明し同意を得るとともに確認印をもらうことを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後の状況や成果を全職員で話し合い、3ヶ月あるいは利用者の状態に即して随時見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等や利用者の要望にそって外出や外泊、通院、病院の見舞いの付き添いなどの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医に継続して受診できるように支援するとともに、協力医による2週間に1回の往診や緊急時に対応できる病院を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のケアを職員や利用者、かかりつけ医で話し合っているが、終末期におけるケアについては十分な体制づくりまでには至っていない。	○	利用契約時に利用者や家族等に終末期における指針を説明し同意を得ることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損ねないように排泄や入浴の際の声かけには十分に配慮している。 書類等は職員だけが分かる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の体調や希望を尊重し体操やレクリエーション、民謡、自家菜園、甘酒づくりなど一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は持っている能力を活かして下膳や食器洗い、食器拭きを担っている。 食事の時はテレビを消して音楽やラジオをかけ、職員は利用者と共に食卓を囲み支援をしながら一緒に食事をしている。 行事の時は一緒に海苔巻き作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴と決まっているが、希望にそって回数や入浴時間は対応している。 入浴を拒否する利用者には清拭や着替えの支援をするほか、車椅子の利用者は福祉用具の利用や機械浴などで安心して入浴ができるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はピアノを弾きながら皆で歌ったり、手紙を書いたり、読書をしたり、植物の世話などをして過ごしている。 職員は利用者の生活歴や趣味を把握し、一人ひとりの生活リズムを大切にしながら過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮し希望にそってドライブや散歩、日向ぼっこなどを支援している。 外食が好きな利用者には外食支援の対応をし、外出を好まない利用者にもドライブなどで車窓を楽しむ支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していないが、各ユニットの入口は暗証番号をテンキーで入力し開閉できるようになっており、利用契約時に家族等に説明し了承を得ている。 また、利用者の希望に応じて職員が開閉している。	○	利用者の行動制限をすることなく日常生活ができるよう、職員で話し合うことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に数回昼間や夜間を想定して実施するとともに、避難経路を各ユニットの廊下に掲示している。 2階の非常用階段を使用するのが困難な利用者の対策までには至っていない。	○	非常用階段の使用が困難な利用者の対策を検討するとともに、地域の人々の協力が得られる体制が望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の食事や水分の摂取量を記録し、常に状況を確認しながら支援している。 栄養士によるカロリー計算された献立や嗜好調査を実施し利用者の希望に合った支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広くて明るく、カーテンで陽光を調節している。 食堂の片隅にはソファが設置され思い思いに寛げる場所になっている。 壁には利用者の絵や写真を掲示するとともにテーブルには季節の花が飾ってあり、季節が感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具やテーブル、椅子、洋服、家族等の手作り品などを持ち込み、利用者好みの落ち着いた過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。